

## 平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モ デ ル 事 業 名	コミュニティビジネスが生む地域の支えあい仕組みづくり事業
対 象 地 域	こうちけんくろしおちょう 高知県黒潮町
対象地域の概要	<p>黒潮町大方地区の管内図と対象エリア</p>  <p>高知県黒潮町の位置</p> <p>湊川系統</p> <p>馬鹿系統</p> <p>いくつになっても生産は続けたいという高齢者は多い</p>  <p>町内の直売所は「高齢者」が主役（朝の出荷風景）</p> 
提案内容の概要	生産活動が継続できる仕組みを作ることにより、耕作放棄地の予防や利活用、コミュニティの活性化、集落の維持、生きがいや楽しみが医療費抑制や介護予防になり、更に地域の安心安全の商品が増えることによって直販所の売り上げ増、ひいては地域産業の振興を目的に、直販所などに出荷の手段を持たない人たちの商品の集荷サポート（「庭先集荷」）システムを構築する。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	<p>我々が行ったアンケート調査から、「農作物などの出荷を続けることによって、地域で人との交流が活性化になっていると思うか」という問い合わせに対して、75%の人が「思う」と回答している。また、「農作業など、働けることは生きがいになっているか」という問い合わせに対してでも 88%の人が「思う」とし、「高齢になっても働き続けられる社会の仕組みは重要だと思うか」という問い合わせに対しても、95%の人が「重要」としている。</p> <p>このように生産した物が売ることは、日々の生きがいや地域内外との交流（コミュニティの活性化）を促進していることが明らかになっており、地域振興の点からも有効な手段であるといえる。</p> <p>つまり、地域のコミュニティ復活、創生のためにも地域の農産物が地域で循環する仕組みができることが、高齢者の生きがいづくりや医療費の削減、生産が継続されることによる耕作放棄地の予防と再生につながり、ひいては国土や環境の保全につながる社会的仕組みが求められている。</p>

(2) 活動内容の案	<b>活動①</b> : コミュニティビジネスや農作業がもたらす福祉的効果（「産業福祉」）に関する研究
	<b>内容 :</b> 他事例調査／旧国土庁モデル事業「高齢者生産活動支援センター」のその後（調査）／「生きがい対策」の分析と考察・庭先集荷参加者の医療費の追跡／ヒアリング調査／セミナーの開催
	<b>活動②</b> : 地域産業としての直売所等地域の小さな流通（コミュニケーションビジネス）振興策に関する研究
	<b>内容 :</b> 直売所等の活性化のための集める仕組み・売り切る仕組みに関する研究／直売所経営者等「覆面座談会」／他事例調査／セミナーの開催
	<b>活動③</b> : 小さな流通（コミュニケーションビジネス）の多様性及び多面性の分析並びに公的機能の評価に関する研究
	<b>内容 :</b> 他事例調査／多面的機能の整理と分析／シンポジウムの開催 直売所等地域の小さな流通（コミュニケーションビジネス）は扱う数値が低いため、どうしても産業振興として捉えられることが多い。しかしそこには数値化されにくい多面的、公的機能が存在することは前述のとおりであり、そのための検証と裏付け、考察を行なう。
応募団体名	しゃだんほうじんこうちけんじちけんきゅう 社団法人高知県自治研究センター
リンク	<a href="http://www.kochi-jichiken.jp/">http://www.kochi-jichiken.jp/</a>
部局／担当者名	理事 畠地和也
連絡先	0880-43-1059 azechi.kazuya@town.kuroshio.lg.jp
推薦市町村名	高知県黒潮町